

特別講演

テーマ：『日本の医療福祉政策の現状・課題・展望』

講師：大熊由紀子（おおくま ゆきこ）氏〈国際医療福祉大学大学院教授〉

略歴：

東京大学教養学科で科学史・科学哲学を専攻。朝日新聞社に入社。社会部記者、科学部記者、科学部次長等を経て、1984年から17年間、論説委員として医療、福祉、科学分野の社説を担当。2001年から3年間大阪大学大学院人間科学研究科教授、2004年より現職。福祉と医療・現場と政策をつなぐ志の縁結び係&小間使いを名乗って独自の活動を展開。

詳細は、<http://www.yuki-enishi.com/>

公衆衛生審議会、医療審議会、中央社会福祉審議会、国民生活審議会等の委員を歴任。障害者の欠格条項をなくす会共同代表、日本社会福祉士会理事、共用品推進機構理事 等でも活躍中。

著書：

『「寝たきり老人」のいる国いない国』『福祉が変わる医療が変わるー日本を変えようとした70の社説+α』『恋するようにボランティアを～優しき挑戦者たち』（ぶどう社）、『物語・介護保険上下巻』（岩波書店）、『患者の声を医療に生かす（医学書院）』『女性科学ジャーナリストの眼』（勁草書房） など

今回の総合リハビリテーション学会学術集会における特別講演では、講師に元朝日新聞社論説委員、現在は国際医療福祉大学大学院教授の大熊由紀子氏をお招きし、福祉や医療に関わる政策や人権の問題についてのお話をお聞きます。

大熊氏の著書『「寝たきり老人」のいる国いない国』（1990年）は、多くの人々に読まれてきました。氏は、なぜ「寝たきり老人」という概念がないのか、という疑問を、政治や文化、民主主義の問題へと拡大し、今日まで熱いメッセージを社会に発信し続けてこられました。今回のご講演では、医療、社会リハビリテーションに携わる我々にとって、示唆に富むお話をうけたまわれます。